

プロフィール

英国イーストアングリア大学修士号取得（紛争・統治・国際開発専攻）。大学院在籍中に国連人道問題調整事務所（OCHA）神戸事務所にてインターンシップを経験。卒業後、国連訓練調査研究所（UNITAR）広島事務所、国連日本政府代表部専門調査員（平和構築担当）を経て本事業に参加。今次海外派遣では、コンゴ民主共和国（DRC）キンシャサの国連常駐調整官事務所（Resident Coordinator's Office (RCO)）に派遣。人道・開発・平和活動の連携を推進する「ネクサス」の実施業務等を担当。本事業終了後、契約を延長し引き続き同事務所で勤務。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

現場経験を積みたかったことが大きな理由の一つです。前職を通じて、各国連加盟国の政治的思惑が入り混じる、国連本部レベルでの平和構築に関する議論を垣間見た一方、私の限られた経験では、議論に上がる現場の様子が思うように掴みきれないもどかしさがありました。フィールドにおける国連の活動はなおさら霧に包まれているような感覚があったので、自分自身の目で見て肌で感じ、経験を積みたいと思いました。

また、海外派遣のみならず、国内研修を通じて同じような想いを持った人たちと学ぶことができたのも、国連の概要が学べる良い機会でした。同時に、これまでの職歴上「同期」と呼べる人たちを持たなかったのも、国内研修は新鮮に映りました。

2. 国内研修に参加した感想は？

国内研修は政務、人道、開発分野に関する取り組みが包括的に学べる構成となっていました。このように分野横断的に学べたことは現在の業務でも活きていると感じます。特に私が担当している業務は分野横断的な知見が求められており、また RCO は他機関が合同で立案・実施しているプロジェクトの管理及びモニタリングをしているため、国内研修時に情勢分析、問題分析及びプロジェクトの立案方法等をワークショップ形式で学べたことは成果の一つです。

また、世界各地から参加いただいた講師陣からは研修を通じて具体的な業務内容や各フィールドでの経験談を伺うことができました。さらに、これらの講師の方々が研修員たちと同じ宿舎にいたおかげで、研修時間の内外を通じてキャリア構築やワークライフバランスについて相談する機会が数多く得られたことも本事業の醍醐味であったと感じます。

そして共に本研修に参加した研修生たちとの繋がりが、なによりの収穫であり財産になっています。国も年齢もバックグラウンドも異なる研修生たちと寝食を共にしながら過ごした5週間は、大学院生の頃の感覚も蘇り、濃い時間でした。この繋がりは、国内研修終了直後 COVID-19 が拡大を始め、海外派遣開始の延期や渡航の中止といった不安な時期の支えとなりました。また本事業を修了した今も変わらず連絡を取り合っています。数年ごとに全国各地を転々とす

ることが多いこの業界で、今回「同期」を持てたことは想像していた以上に心強く、励みになっています。

3. 業務内容について教えてください。

主に私が担当している業務は、人道・開発・平和(Humanitarian Development Peace)間の連携を推進する「ネクサス」アプローチを現場に落とし込むための作業です。Humanitarian Development Peace の頭文字をとった HDP ネクサスまたはトリプル・ネクサスと呼ばれるこの枠組みは、3分野が連携することにより、現場にて喫緊の人道的ニーズに対応すると同時に、長期的な支援が必要とされる部分や潜在的な脆弱性にも対処することで、持続的な平和や SDGs の達成を目指すものです。この抽象度の高い枠組みを現場に合わせて実施に移すにあたり、RCO として政府、ドナー、NGO、各国連機関間の調整をおこなう任務を担っています。

コンゴ民主共和国(DRC)には PKO ミッションである国連コンゴ民主共和国安定化ミッション(MONUSCO)もあり、また同国の国連常駐調整官(RC)は国連事務総長特別副代表(DSRSG)及び人道調整官(HC)を兼ねています。私が国連ボランティアとして従事している間は、MONUSCO の一部地域からの撤退が完了若しくは開始する時期と重なっており、こういった国連ミッションにおける移行の動きと関連してネクサスの推進を行うことになりました。主に MONUSCO が撤退する地域を対象に、地方政府、NGO、市民社会、各国連機関及びドナー間で「ネクサス」の認識を一致させ、現在実施中のプロジェクトについて各テリトリー別に国連、ドナー、NGO ごとの活動割合を割り出します。また4つの重点分野別にグラフにすることにより、現状を把握するとともにギャップの明確化を図ります。そして政府、NGO、市民社会、ドナー、国連が共に、対象州内における「ネクサス」実施パイロット地域の選定や現場における調整メカニズムを設置しました。これらはごく一部に過ぎませんが、ワークショップの開催や、各地域への地方出張、また首都キンシャサでの定期的な会合を通じて、人道・開発・平和アクターが連携しやすい環境づくりを行っています。

DRC はネクサスに対する取り組みが他国と比べても進んでおり、同国内における国連幹部レベルでも高い関心が示されています。また国連本部では、各国のネクサスに関する活動の好例や教訓を集めたマッピング作業も行われる等、立場や勤務地、そして機関も超えた、まさに one UN を体現するアジェンダの一つだと感じています。国連機関内外を通じて様々なアクターと連携しながら皆で進めていく作業は、それぞれが異なるマンデートと様々な視点を持ち合わせているが故に難しい場面もあります。しかし、『火消し』のみならず根本要因の克服・除去に取り組むことが、今後さらに求められる側面だと思います。現場で必要とされている支援をより効果的なものとし、試行錯誤を重ねながら少しずつセオリーから実施へと移行するための作業の一端に携わっていることは、この業務の醍醐味の一つです。

その他、複数の国連機関が合同でプロジェクトを立案・実施することが求められている基金(COVID-19、人間の安全保障、SDGs、障がい者の権利のためのパートナーシップ等)に関するプロジェクト管理も RCO として行っています。



(機内から見えるキブ湖)

(小さな都市へ出張の際は
途中からプロペラ機に乗り換え)



(タンザニア、ザンビア、ブルンジの
国境と面しているタンガニーカ湖)



(タンガニーカ湖で釣れた魚を使った地元の料理)

4. 海外派遣での感想は？一番印象に残っていることは？

勤務開始当初はまさに COVID-19 が全世界で猛烈に拡大を始めた時期と重なり、赴任当日の朝に渡航中止のメールを受けそのまま待機となり、当初より2か月遅れての勤務開始となりました。最初の4か月間は日本から在宅ワークをし、キンシャサに渡航してからもしばらく在宅勤務が続いていましたが、そんな中でも地方出張を通じてフィールドを自分の目で見る事が出来たことは印象深く残っています。上で述べたとおり、私が担当している業務は MONUSCO の移行とも関連しており、MONUSCO 地域事務所撤退という一つの歴史的な時期に立ち会えたことは貴重な経験でした。

はじめての地方出張は、外交団と国連の合同ハイレベル視察の準備のため週末前に現地入りし、翌週の視察に同行する任務でした。しかし私と一緒に前入りする予定であった同僚が空港で足止めを食らい、一人で現地入りすることになりました。赴任して間もない頃だったこともあり、状況も分からないまま、到着すると携帯も圏外だったため、運転手さんと合流するのの一仕事でした。到着後、視察団が訪問を予定しているプロジェクト実施現場までのルート確認作業に参加しました。MONUSCO に属している国連警察（UNPOL）から武装警察隊（FPUs）および個人警察（IPOs）が同行し、プロジェクト実施現場までおよそ130kmの道のりを、車列を組んで向かいました。予想所要時間は片道4時間往復8時間でしたが、雨季で道が緩んでいたこともあり車両が次々とぬかるみにはまって、しばらく足止めを食らうこと数回、結果全行程に23時間かかりました。粘土質の赤土が多い道もあれば、岩がゴロゴロしている道が続いたり、車の背丈以上の雑草林に囲まれたりと、飽きの来ない道のりでした。また、はじめて訪れる村々を通り過ぎながらだったこともあり、幸い楽しく過ごしましたが、休憩もなくほぼ丸一日車で走り続けた経験はフィールドの洗礼として印象に残っています。

（道中の風景）



(道中車がぬかるみにはまった様子)



(平和構築基金 (PBF) プロジェクト視察へ向かう様子)



5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

本事業の契約が満了した後、UNV として契約を延長し今も（2021年6月現在）同事務所で勤務しています。今後も国連でキャリアを積んでいくことを目指しながら、引き続き平和構築分野に携わる仕事に就きたいと考えています。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

UN「ボランティア」と聞くと誤解されがちですが、これはあくまでも契約形態を示すものにすぎず、必ずしも本人の立場やレベルを表すものではないという点は、現場に来て強く感じました。また元 UNV で現在は正規ポストで勤務している職員が周りにたくさんいたことは嬉しい誤算で、JPO や YPP と同じように UNV を入り口にキャリアを積むことも選択肢の一つだと思いました。この事業は UNV として国連に一步踏み出すことのできる良い機会ですし、特にフィールドでの経験を積みたいと考えられている方におすすめです。



(地方特産品の30cm超え特大パイナップル)